

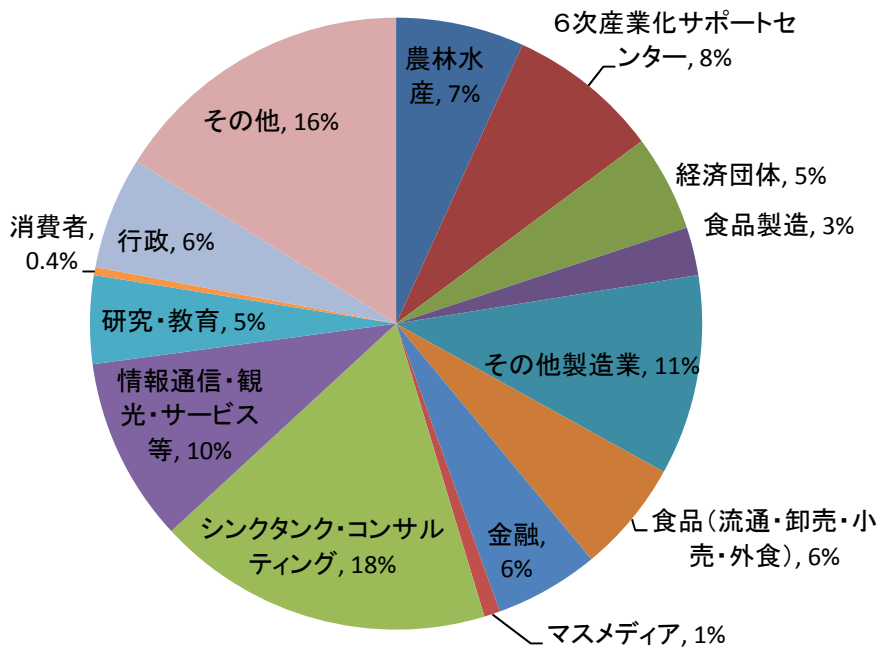
平成24年度産業連携ネットワーク会員アンケート 結果概要

実施期間：平成25年1月21日から平成25年2月8日まで

回答者数：236者

回答率：約25%（アンケート開始時の会員数に対する回答率）

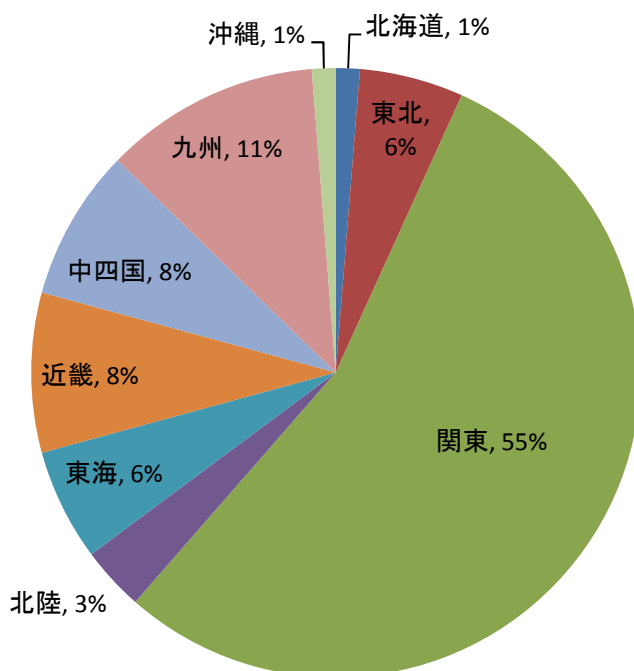
1. 回答者の属性



【業種】

◆産業連携ネットワーク会員の業種構成に概ね対応した割合で、多様な業種から万遍なく回答が得られた。

(N:236)

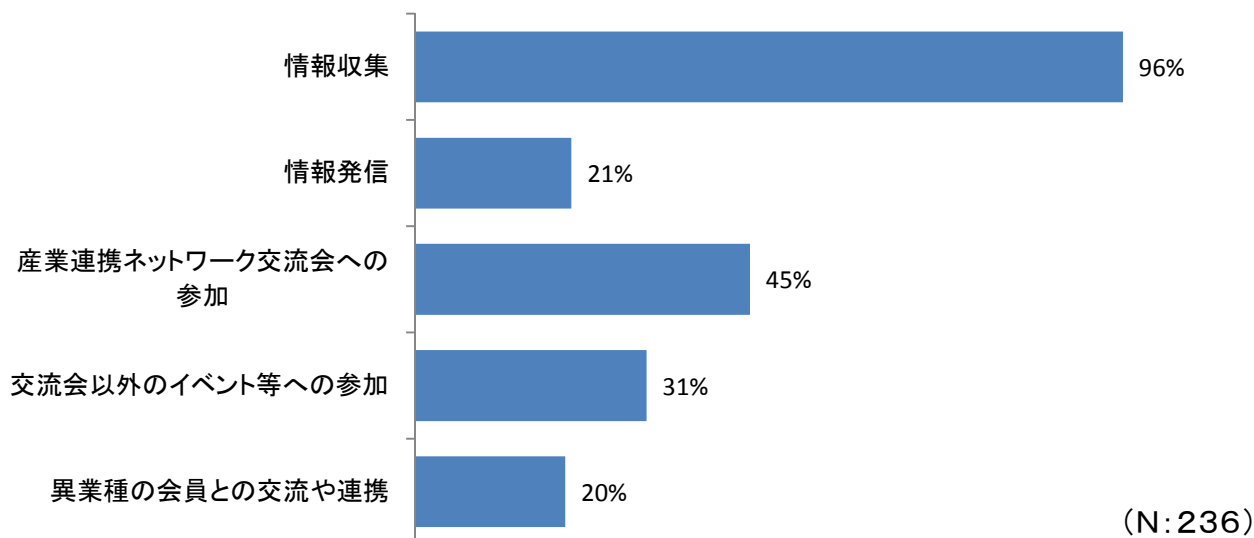


【地域】

◆中央で運営されるネットワークであるため、関東地域（主に東京都）に所在する会員からの回答が半数を超えているが、各地方ブロックからも万遍なく回答が得られた。

(N:236)

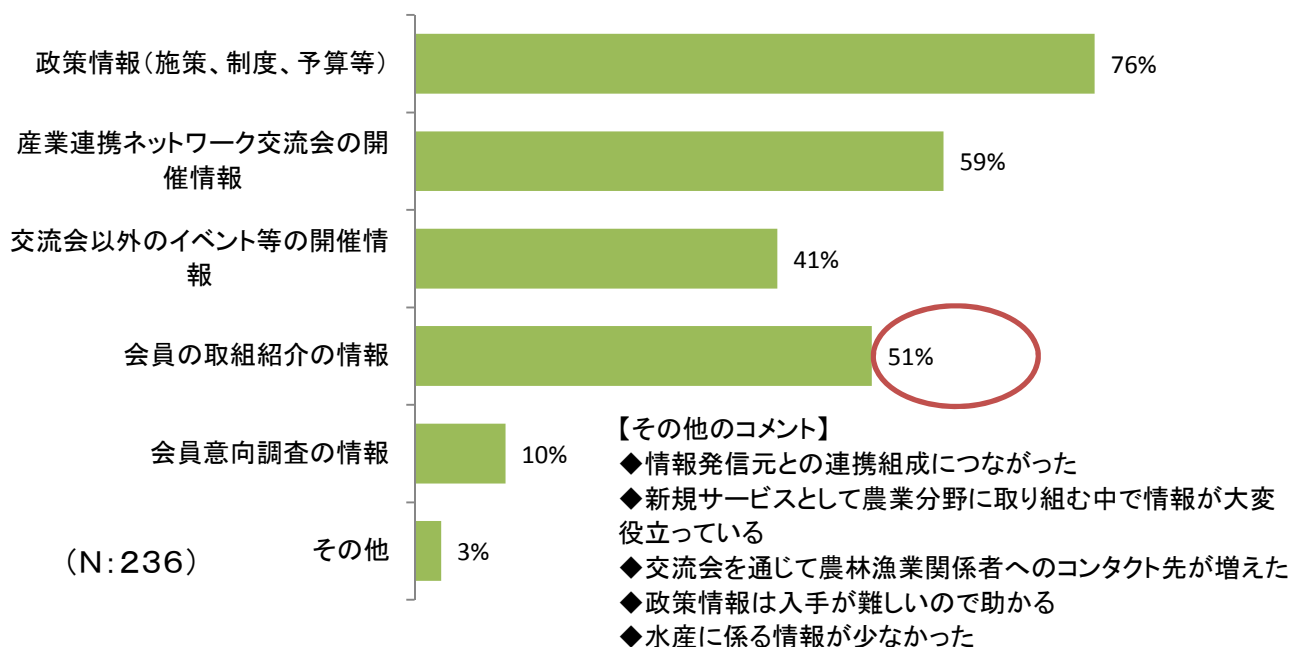
2. 会員の活動状況



◆会員の活動は、事務局や会員から提供される情報の収集が基本であるが、テーマや関心に応じて、産業連携ネットワーク交流会や交流会以外の会員が案内するイベント等に対しても3～5割の会員が参加している。

また、自ら他会員に対して情報を発信したり、参加した交流会等で異業種の会員と交流や連携を深めるなど、能動的な活動も2割の会員が行っている。

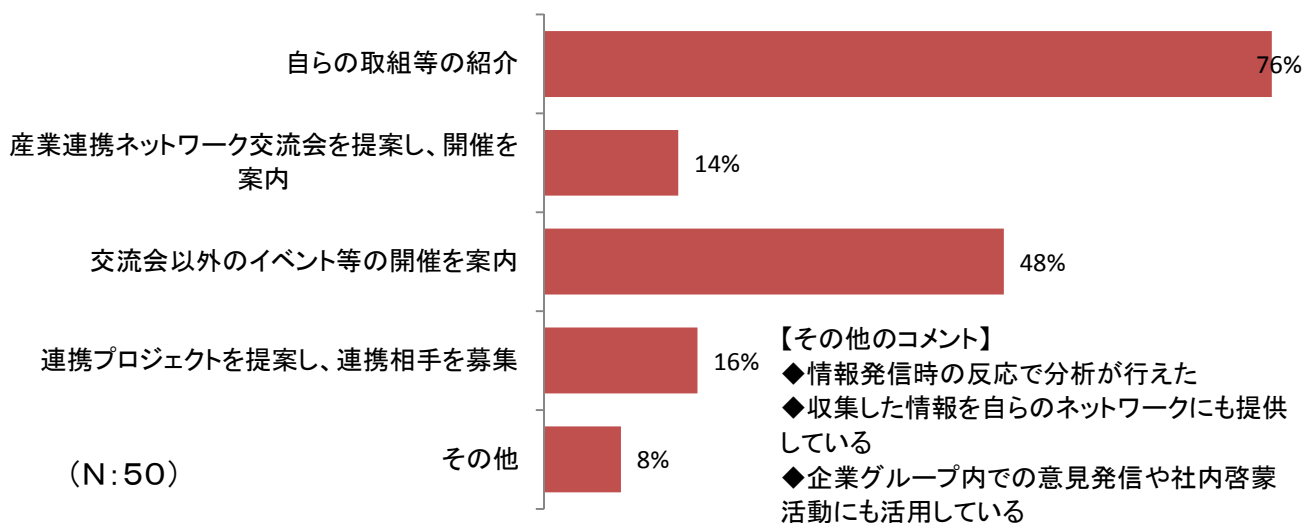
2-1. これまでの情報収集で役立ったもの



◆情報は、政策に関するものが最も求められているが、交流会等のイベント情報も役立てられている。

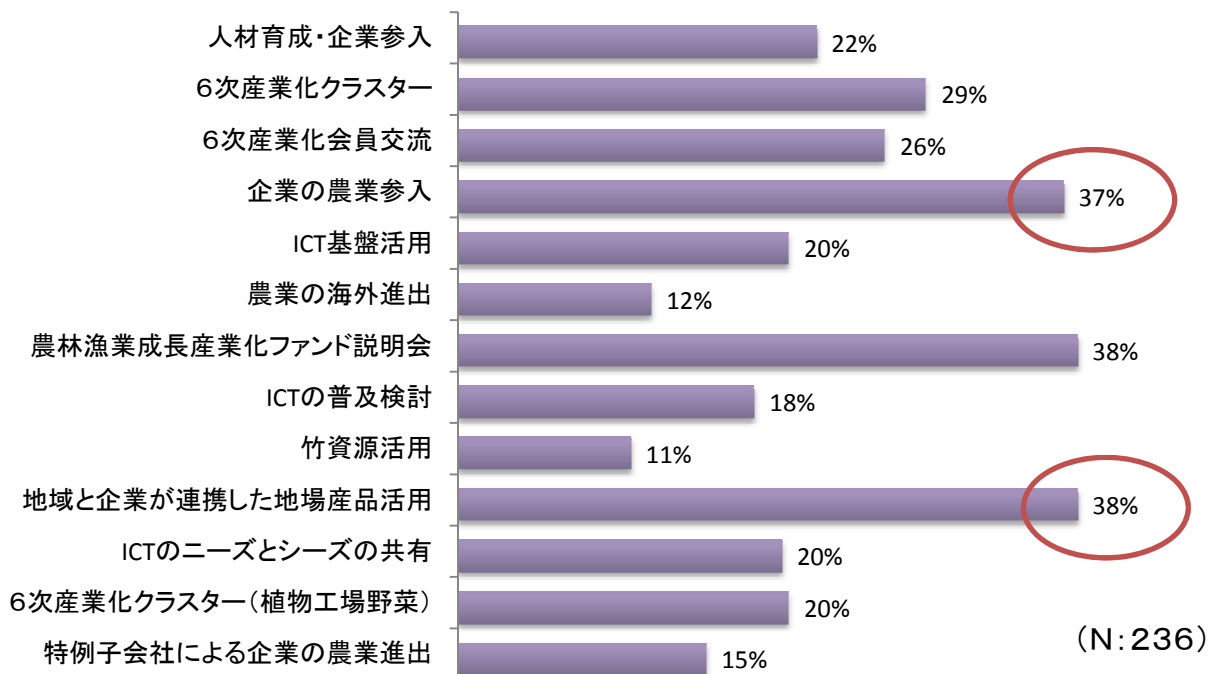
また、多様な業種の会員による農林漁業に関する取組の紹介も評価されているが、より多くの会員の情報が記載された会員意向調査の情報は十分に活用されていない。

2-2. これまでに行った情報発信の内容



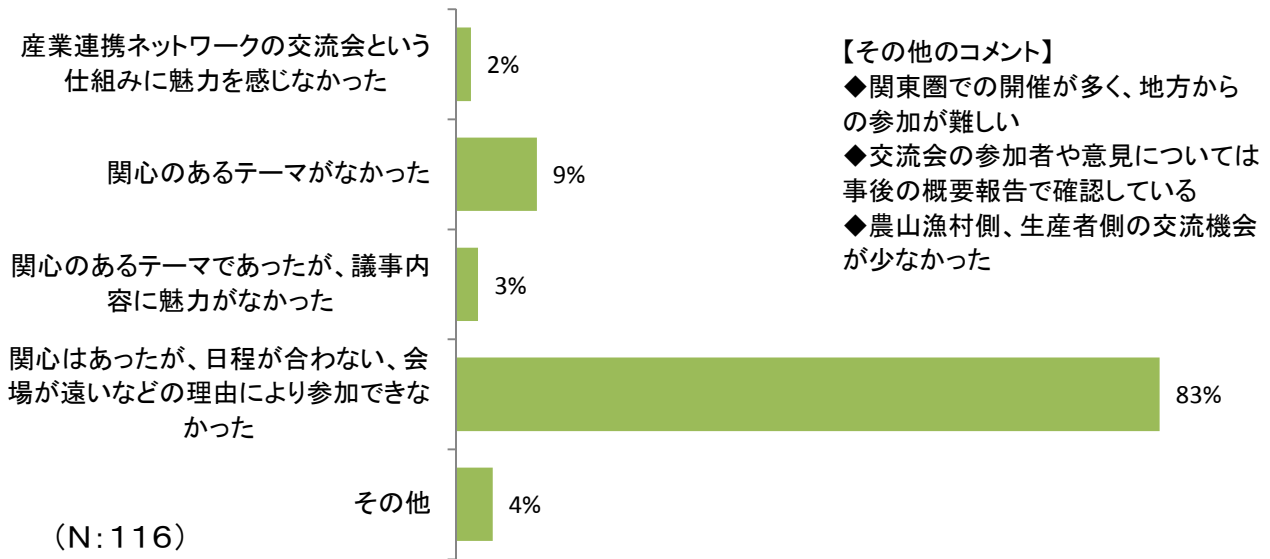
◆情報発信は、ネットワークを通じて自らの農林漁業に関する取組を他会員へ紹介するものが大半であるが、自ら開催するイベント情報等の発信も半数近くにのぼる。
 一方、ネットワーク会員を対象にした交流会を提案したり、連携プロジェクトを提案するなどの直接交流や連携を求めていく情報発信はまだ少ない。

2-3. 産業連携ネットワーク交流会で関心の高かったテーマ



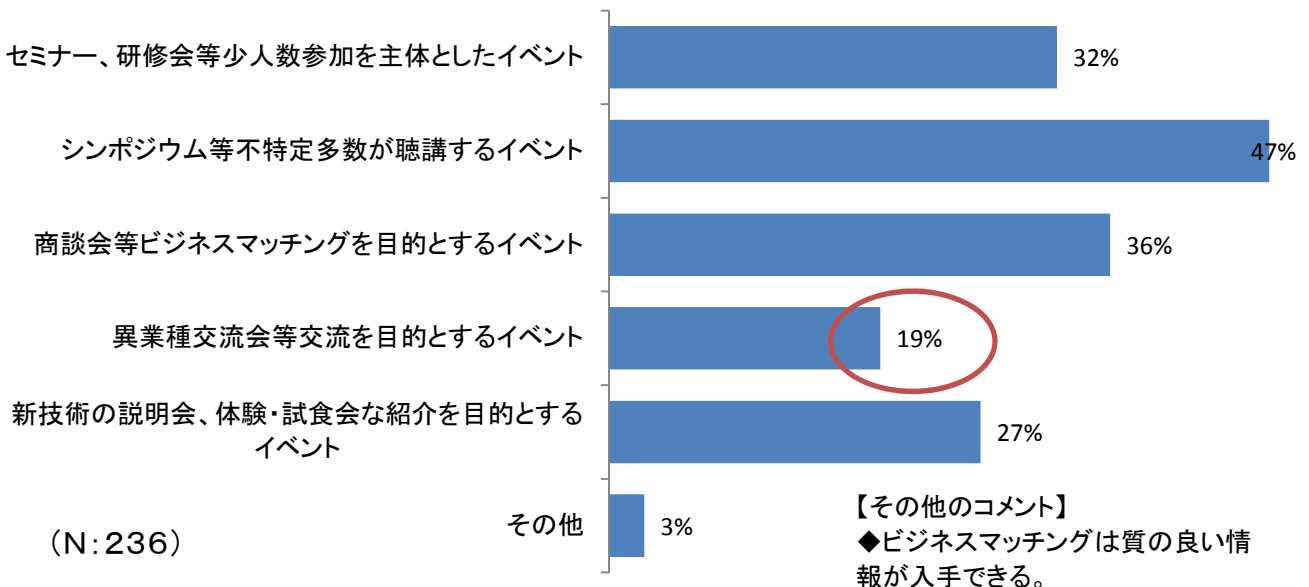
◆交流会のテーマは、企業が農業分野に進出するテーマに関心が高いほか、農林漁業成長産業化ファンドや地域と企業の連携による地場産品活用など、企業が農業分野と連携して取り組むテーマに関心が寄せられている。
 また、実際の参加者数と関心の高さには必ずしも相関があるわけではなかった。

2-4. 産業連携ネットワーク交流会への不参加理由



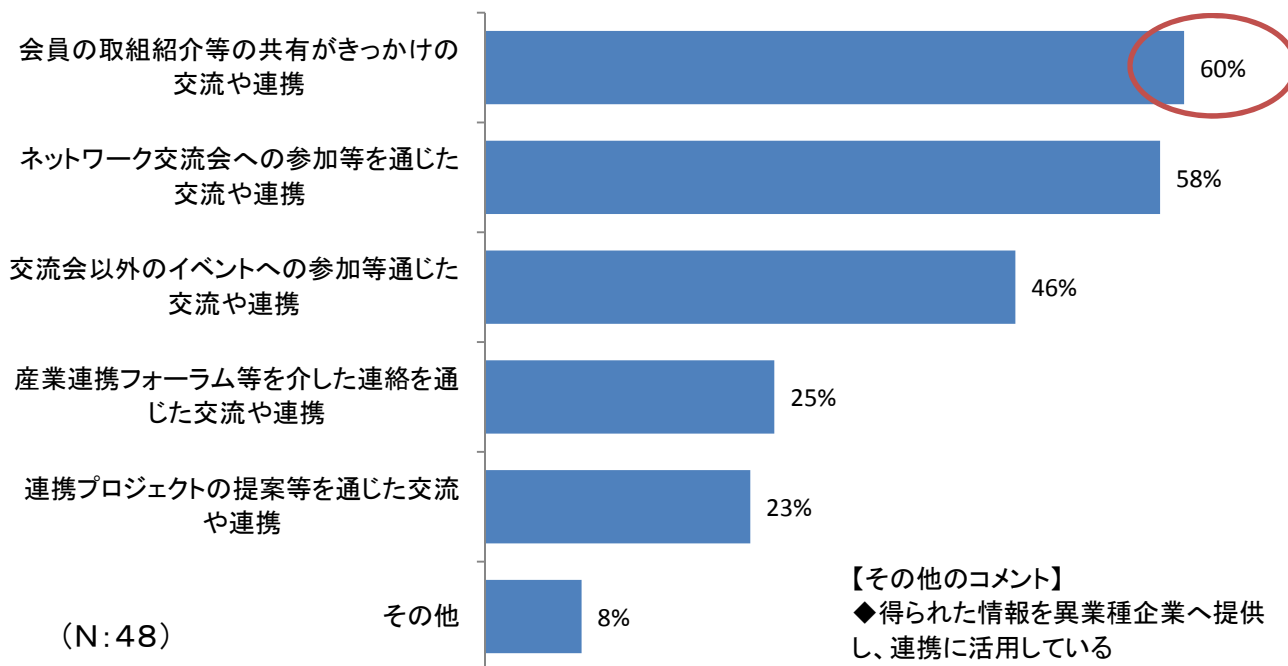
◆交流会に不参加の理由は、大部分が日程や会場の不一致であり、交流会の仕組みやテーマには概ね関心を持たれている。

2-5. 産業連携ネットワーク交流会以外の役立ったイベント情報



◆会員が他会員に向けて案内する様々なイベント等の情報は、特にシンポジウム等の不特定多数を対象とするイベント情報が役立てられているが、商談会や少人数セミナー、新技術説明会など、ビジネスの促進や参加者間の連携・交流につながり易いイベント情報も役立てられている。

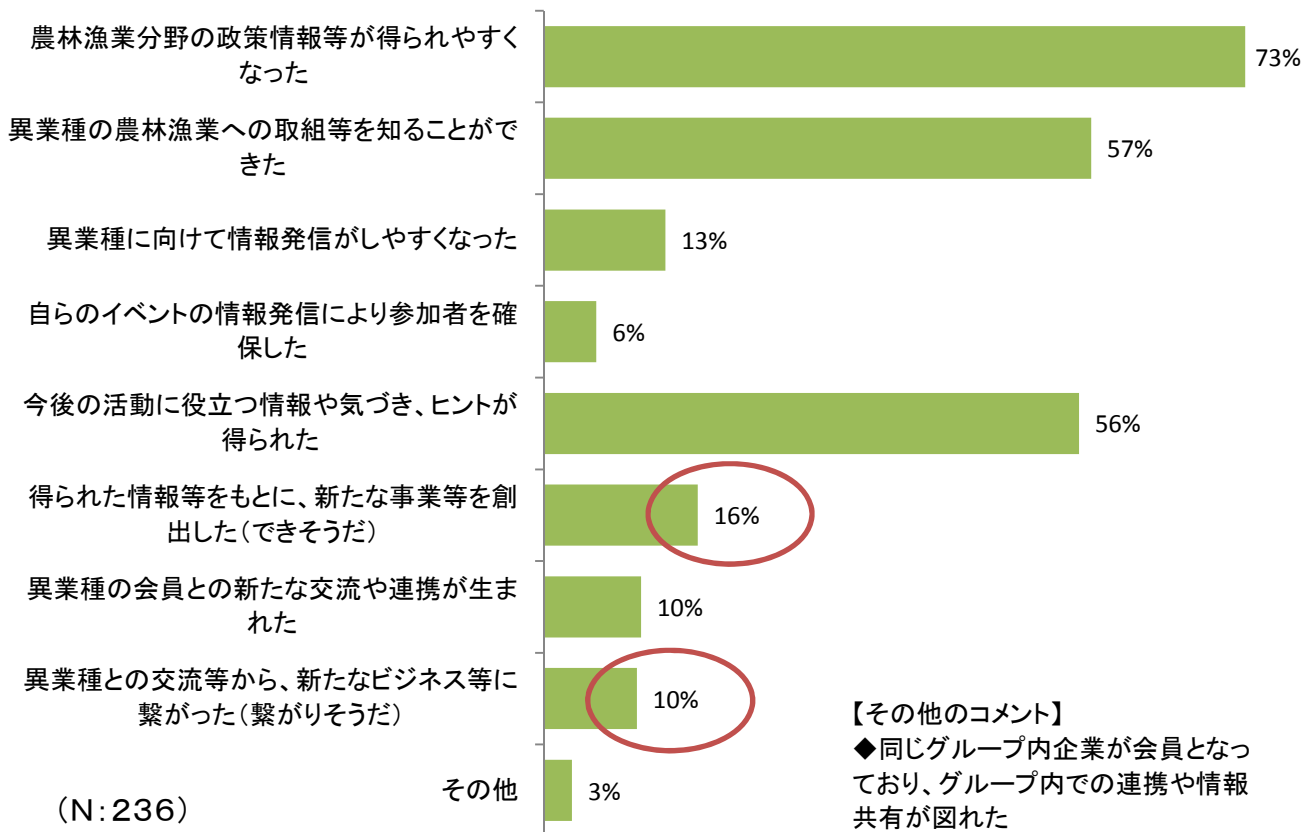
2-6. 異業種の会員との交流や連携に役立ったもの



◆異業種の会員との交流や連携には、連絡先の記載がある会員の取組紹介が最も役立てられているが、直接対面する交流会や交流会以外の様々なイベント等の機会も交流や連携の促進に役立てられている。

一方、産業連携フォーラムを介したバーチャル上の連絡や、連携プロジェクトの提案をきっかけとした交流や連携は十分に役立てられていない。

3. 産業連携ネットワークへ参加した効果

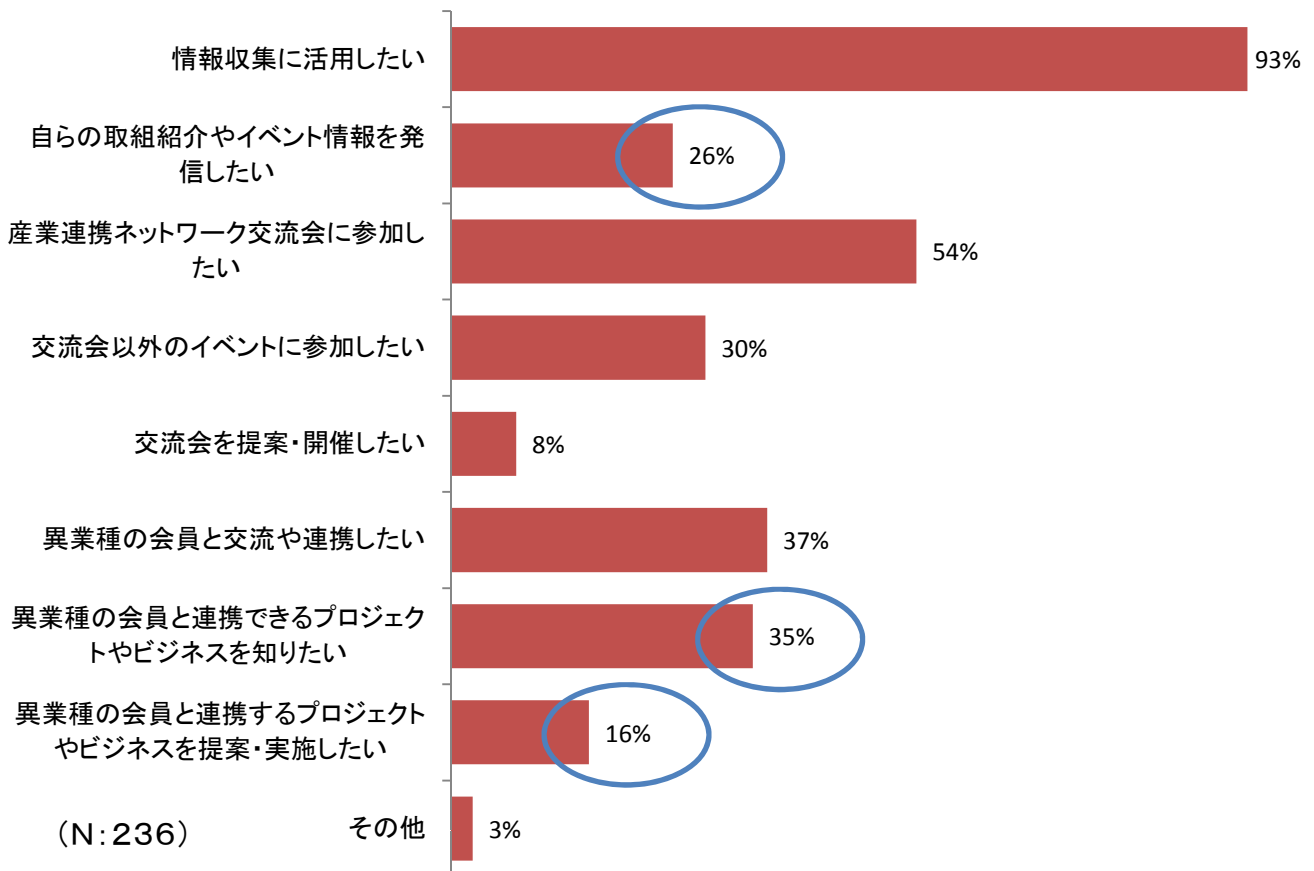


◆産業連携ネットワークへ参加した効果は、農林漁業分野の政策や異業種の取組などの情報を得られ易くなったことが一番に挙げられているが、その中から今後の活動に役立つ気づきやヒントを得て、新事業の創出等へと結びつけていく動きが出始めている。

また、交流会等をきっかけとした異業種との交流、連携により、新たなビジネスにつながる動きも出始めている。

一方、自らのイベントの情報発信により参加者を確保したという回答が低くなっているが、本アンケートの結果から、そのようなイベント情報を役立て参加したという回答が相当数得られているため、情報発信者からの把握が難しいが効果は出ていると思われる。

4. 産業連携ネットワークでの今後の活動意向



◆会員の今後の活動意向は、引き続き情報収集を基本としているが、交流会や交流会以外のイベントへ参加して異業種の会員との交流や連携を図りたいという意向を3割以上が有している。

また、自らの取組の紹介や、交流会の提案・開催、連携プロジェクトの提案・実施など、積極的に他会員へ働き掛ける活動意向を有する会員も一定程度存在している。

その他、異業種の会員と連携できるプロジェクトやビジネスの情報を求めている会員も多い。

5. 今後の提供を希望する情報や開催を望む交流会のテーマ等

【求めている情報】

- ◆国や県の政策動向、各種規制や補助制度
- ◆異業種(企業)からの農業参入事例、補助制度
- ◆人材育成や経営支援の方法
- ◆法人経営のビジネスモデル
- ◆食品業界、総菜、カット野菜業界の動向とニーズ
- ◆1次産業の協同組合と民間企業との連携
- ◆1次産業のCSR
- ◆カーボンオフセットなど多面的機能のビジネスニーズ
- ◆医農連携
- ◆食品産業の環境対策
- ◆6次産業化に取り組む農業者(若手)の意向、意識
- ◆ファンドの活用状況
- ◆遊休農地や遊休施設の情報交換
- ◆水産業界関係
- ◆政府の保有するビッグデータ
- ◆農林漁業者に売る技術を提供する事業システム
- ◆農業と再生可能エネルギー産業との連携
- ◆地域の未利用資源を活用した地域再生
- ◆東北復興支援関係
- ◆竹堆肥や有機堆肥の事例
- ◆農業の運送コストダウン化
- ◆農林漁業の政策課題解決へのICT活用事例、財政措置
- ◆旅行や交通業界のリソースを活用した6次化マーケティング
- ◆知的財産の侵害等の情報

【求めている場】

- ◆会員の情報交流の推進
- ◆官主導の政策とのマッチング
- ◆各業界の困りごとをネットワークで解決する場
- ◆実務家の連携ができる場
- ◆生産者と情報通信事業者との意見交換の場

【開催場所】

- ◆全国主要都市での開催
- ◆地域ブロック単位の交流会やビジネスマッチング
- ◆定期的な現地見学会

6. その他産業連携ネットワークへの意見等

- ◆一次産業と二次、三次産業との関わりを捉える上で有意義なネットワーク
- ◆ネットワークで得た情報は、当協会の会員向け情報に有効活用している
- ◆当社にとって未知の分野であった農林漁業を具体的に事業検討する段階に達する機会を得た
- ◆ネットワークの継続と情報発信(マスコミ含む)
- ◆6次産業化の推進状況や効果の検証が必要
- ◆方向性を持ったテーマでの運営が必要
- ◆儲かる農業をテーマに会員からの提案を募集してはどうか
- ◆交流会のテーマは、サプライサイドとデマンドサイドを分けて設定してはどうか
- ◆現地の関係者(生産者、農協、自治体)の意見や提案を聞きたい
- ◆テーマと参加規模が大きく、地方の個別情報が分からない
- ◆観光分野で役立ちたい
- ◆発表会形式から連携の具体性を持たせていくことを期待
- ◆海外農業関係者の視点と行動、その国の政策との関係
- ◆漁業関係が少ないので、漁協、水産会社、水産関係団体の参加
- ◆イベント等の情報発信をなるべく早めにお願ひしたい
- ◆農林漁業者側からの情報発信や交流会等への参加が増えると可能性が広がるのでは